

かき「いさはや」の大果生産に効果的な果実管理法

〔要約〕かき「いさはや」で大果を生産するためには5月中旬に1結果枝に1花を残す程度の摘らいと7月上旬に葉果比20程度の摘果を実施するのがよい。

長崎県果樹試験場・落葉果樹科

専門

栽培

対象

果樹類

分類

普及

平成5年度長崎県果樹試験場業務報告

〔背景・ねらい〕

かき「いさはや」は元来、大果になる素質を持ったかきであるが、果実管理が不十分なため期待したほどの大果が生産できていないのが現状である。そこで、摘らいの有無と摘果時期が果実肥大及び果実形質に及ぼす影響を明らかにし、「いさはや」の大果生産のための適正な果実管理法を検討した。

〔成果の内容・特徴〕

- ① 7月上旬に葉果比20になるように摘果を実施すると大果となる。（表1）。
- ② 摘らいを実施し、摘果を7月上旬に行うことによって450g程度の大果となる（表2）。

〔成果の活用面・留意点〕

- ① 生理落果は6月末でほぼ終了するが、年によっては7月にはいつても続く場合があるので、生理落果の状況を把握し、生理落果の終了後、摘果を実施する。

[ 具体的データ ]

表 1 葉果比の違いと果実肥大及び品質

摘果時期	葉果比	果実重 (g)	果 径		果皮色 <sup>z</sup>	糖度	種子数 (個)
			横径 (mm)	縦径 (mm)			
7月 1日	1 5	355.3	82.3	71.5	4.4	13.9	2.9
7月 1日	2 0	411.7	97.9	71.9	3.9	13.3	2.7
7月 1日	2 5	392.0	95.5	73.5	4.0	14.3	2.3
7月30日	2 0	237.0	81.3	64.1	4.0	13.8	3.5

<sup>z</sup> 果皮色：カラーチャート値

表 2 摘らい、摘果時期と果実重及び果実形質

摘らい	摘果時期	果実重 (g)	へタスキ <sup>z</sup>	へタ枯れ <sup>z</sup>
有	7月 6日	445.9a <sup>y</sup>	2.0a	1.3a
有	8月 3日	354.6b	1.0a	2.2a
無	7月 6日	375.3b	1.5a	2.4a
無	8月 3日	355.7b	0.7a	1.9a

<sup>z</sup> へタスキ、へタ枯れ：4（甚）～0（無）

<sup>y</sup> 縦の異なる文字間には5%レベルで有意差あり

[ その他 ]

研究課題名：カキ ‘いさはや’ の高品質果実生産実証試験

予算区分：県単

研究期間：平成5年（平成4～5年）

研究担当者：林田誠剛，森田 昭

既発表論文等：なし

残された問題点：着果数及び6～7月の天候と生理落果の関係が不明である。